

会報

文部科学省の委託調査研究事業に

参加して

代表世話人 土屋 宏

文部科学省は拡大教科書に関する調査研究事業を委託して実施し、成果を施策に活かすことに努めております。今回は、富士ゼロックス社が受託した調査研究の検討会に参加し、知り得た状況を報告します。研究テーマは「教科書デジタルデータ提供のシステム整備」ですが、その中は4つのサブテーマに分かれて調査されています。

第一は「高校等における教科書デジタルデータのニーズ」です。

特別支援学校、普通高校、教育委員会をアンケートやヒアリングで調査し、そのニーズ状況を把握するとともにデジタルデータの活用法についての講習会を開催し、潜在ニーズの探索を試みています。現況では教育委員会や普通高校での理解度が不十分で、普及するための制度や運営を継続的に充実する必要性が見えた結果になっています。

第二は「教科書デジタルデータの申請システムの開発」です。

デジタルデータ申請のプロトタイプ版システムを開発し、幾つかの有志会員にはテストに協力参加していただきました。用紙に記載して申請するよりは効率的に処理が済み、情報の取得や進捗状況を確認出来ることは大きいメリットのあるシステムであったと思います。

しかし、正規に採用されるには行政の手続を待つ必要があります。データ管理機関の役割や機能も強化する必要があると見られています。

第三は「デジタルデータの提供方策」です。

23年度は小学校の教科書が大改訂されました。教科書大改訂の年のデジタルデータの提供はどうなるのか不安がいつぱいでした。23年度の小学校教科書をモデルとして改訂年度におけるデータ提供の実態を調査し、

その課題を研究しました。教科書発行社とデータ管理機関の間で相応の連携対応をしなければ円滑なデータ提供は望めないことが見えてきました。発行社の製作工程やミス訂正の発生状況によりデータの提供時期も変動し、ボランティアの製作工程にも影響が現れました。教科書発行のタイミングのずれをリカバリーする対策が欠かせないことも見えませんでした。またデジタル教科書発行社とデータ管理時期も変動し、ボランティアの製作工程にも影響が現れました。教科書発行のタイミングのずれをリカバリーする対策が欠かせないことも見えました。またデジタルデータの品質向上策にはデータ管理機関の運営費用等とのバランスを検討することも重要であり、ボランティア相互に情報を共有することには、アンケートなどではデメリットもあるとの結果がでていきます。

第四は「汎用的な教科書デジタルデータの研究」です。

教科書デジタルデータを拡大教科書用以外の点字や音声教科書として活用することを意図しての調査のようです。拡大教科書とは直接関係が無いので具体的な検討結果は省略します。

以上の調査研究の結果からは、拡大教科書を製作するうえで十分に満足できるデジタルデータを手にすることはまだまだ先のような気がします。

一つには、教科書発行社からデジタルデータを提供されるタイミングとボランティア拡大教科書を製作するタイミングが余りにも近接した状態があります。何れを担当行程で努力しても物理的に現在の教科書発行スケジュールでは改善の余地がないと思われれます。改訂年度は教科書発行の計画スケジュールを少し前倒しにして、教科書発行期限を早めるなどの抜本的な対策が望まれます。

今回の調査研究の結果は私たち全国拡大教材製作協議会の会員のみの意見から生まれた結果ではありませんので、全国拡大教材製作協議会で考えられる傾向とは少し違っているようにも感じました。弱視児童生徒に限らず、拡大教科書を利用したいと望む障がいのある児童生徒への教材提供は多くの人々が手を携えて協力して行うものと信じています。その連携が出来るからこそボランティア活動だと思っています。

別に、慶応義塾大学の中野先生に委託された「拡大教科書の提供システム」に関する調査研究事業があります。一部の会員にはヒアリング調査や拡大教科書のサンプル提供などのご協力をいただいで進められて

ている事業ですが、内容の全ぼうがわかっておりませんのでここではご報告が出来ません。後日改めてご報告をしたいと思っております。皆さんからご提供いただいた拡大教科書のサンプルは、種々の検討を加えて取捨選択されましたがサンプル集になり、各教育支援学校等に配られていることをご報告いたします。今後、サンプル集を利用し、児童生徒が拡大教科書を選択するときにはどのように役立ったかを検証することが期待されております。

今後とも各種の調査研究が出てくると思われますが、引き続きご協力お願いいたします。

ゆっくり、着実な歩みで・・・

手作り拡大写本 かたつむりの会 草野 富美子

私たちの会は、昭和60年5月、弱視児や弱視者の方にも読書の喜びを味わって欲しいと写本講習会の受講生で発足しました。

会員のほとんどが家庭という殻を背負つての主婦でしたので、あせらず、ゆっくり、着実に、心を込めて活動を続けていこうと「かたつむりの会」と名づけました。

手書きで絵本、小説等の拡大写本を製作していました。一冊の絵本が完成した時の喜びは今でも忘れられません。

今までに図書館等に寄贈した拡大写本は200冊ぐらいいになりました。

拡大教科書の依頼がなくなったら、以前のように課題図書などの拡大写本を作っていきたいと思っております。

昭和62年、会員の1年生のお子さんの拡大教科書を製作したことが手書きの拡大教科書を作るきっかけとなりました。

平成9年「全国拡大教材製作協議会」が発足。微力ながら協議会の一員として主に小学国語、算数、中学国語を教科書と同じページ対応の手書き拡大教科書を作ってきました。文字の大きさには限界がありますが、依頼を受けた時は見本コピーをお送りして確認してから製作しています。利用しているお子さんから大きな文字で一字

一字丁寧に書かれたお札の手紙を頂いた時は最高の喜びです。最近では遠方からの依頼が多くなり、利用者からの感想がなかなか伝わってこないのが残念です。

平成23年度は教科書出版社の標準拡大教科書を利用される方が増えたので今年度依頼がありましたのは継続の小学校算数の2名です。改訂版なので私たちにとつては精一杯です。利用してくださる方がいる限り手書きの温かさが感じられるような拡大教科書を作っていきたいと思っております。

昨春秋、県内の4つのグループがお互いに情報を交換し協力していこうと『千葉県拡大写本グループ連絡会』ができました。3回参加させていただき最新の情報、問題点などをお聞きでき大変有意義でした。

この連絡会をきっかけに、皆さんのご指導を受けながら男性会員(3名)を中心にパソコンに挑戦してみようかとちよっぴり動き出した現在会員15名のかたつむりの会です。

拡大写本ボランティア これからは？

浦和拡大写本の会 今岸 和代

新年度の拡大教科書発送はもう終わったでしょうか。

今回の拡大教科書作成は、私たちの会にとつて、教科書改訂があったことと、新しい依頼者で今まで作ったことのない大きなポイントを使用したこと等、例年の製作と少し様子が違っていました。

弱視児童に拡大教科書を提供するにあたってポイントの大きさを決める時、特に新入生はまだ字もよく読めないということもあり、適正なポイントを決めるのは、一般的にむづかしいことのように思われます。

入学時検診の際、弱視のお子さんには専門家の指導が必要ではないでしょうか。

今回は文部科学省が出版社に要請して作ったもので間に合う場合はそれを使うようにとのことで我々ボランティアが作る拡大教科書

数は大幅に減少しました。

昨年、埼玉県拡大写本連合会での話し合いの時も製作依頼が激減し、グループを解散したところもあり、これから先の活動については先細りの状態でした。

教科書以外にも、参考書・問題集・読み物・絵本等、製作するものは色々あると思われませんがそれらの製作には費用が問題です。

絵本にはカラー印刷は必要欠くべからずですし、A3のプリンターをボランティアが持つこともむつかしいのです。

拡大写本は特別な資格がなくても、グループの中で勉強会をして比較的簡単に参加できるボランティア活動ですが、昨今、若い人達の参加は非常に少なくこの十年、めざましい文明の利器が次々と開発され、それを使いこなすことが高齢？のボランティアには至難のわざなのです。

二十年前は子育てが一段落し、何かお役に立つことはないかしら？といった人には、「字を大きく書く。」という誰にでも出来るという気軽さで参加した人が多かったのですが、今や手書きの本はほとんど姿を消しました。

浦和拡大写本の会でも、六十の手習い？でパソコンの習得に励み、スキヤナーで絵を取り込み、長い文章はOCRで読み取ったりとやと充実した拡大写本製作が軌道にのりかけた時、殆どの教科書がボランティアの手をはなれてしまうという現実は、少なからず残念な思いです。しかし、ボランティアに参加する人が少なくなっただけで充分に弱視の方の要望に答えることが出来ません。

このような状況の時、出版社から拡大教科書が発行され、多くの方の要望に応えられることは本当に喜ばしいことです。ただ、出版社発行の規格ではどうしても不自由な方もあるでしょう。

数は少なくなっただけとはいえ、まだまだ活躍出来るボランティアは健在です。ささやかな力でもお役に立ちたいと思っております。

拡大写本の会グループ発足に寄せて

四街道拡大写本の会 越島 陸雄

昨年の夏、拡大写本の会千葉県グループがスタートしました。名前を『千葉県拡大写本の会連絡会』と決めました。

全国のボランティア団体がどんな活動をしているのかあまり知られていない現状にふれ、同じ目的を持った仲間の輪を広げ、不満を言ったり自分たちの不足している技術、知識の向上などを学び合う事が必要に思われました。

千葉県内には、4つの拡大写本の会があります。

- ・ 柏市 拡大写本サークル
- ・ 浦安市 写本グループーペ
- ・ 野田市 かたつむりの会

・ 四街道市 四街道拡大写本の会

古くは、製本技術、編集のしかたなどを他の会に教わりに行ったそうです。最近あまり交流が無く情報交換が出来ていませんでした。全国のボランティアが拡大教科書を作製する上での課題で同じ苦労をしていると思うので、それを解決するためまず、千葉県内のグループに働きかけました。

昨年度より教科書発行会社（出版社）の拡大本が出そろっているので製作依頼が30%減少している状況から今後手の空いた時、何をするかなどを話し合っていきたいと思っております。

今まで、2ヶ月に1回開催し各グループの活動状況を見せていただき、昼食を食べながらグループの皆さんと話し合いみんなが楽しく作業をしているところにふれることが出来ました。

今後、情報交換連絡会が広がっていくことを願っています。



*平成二十三年度定時総会について

三月十一日の東日本大震災で大きな被害に遭われた地域の方々、又、東京電力福島原子力発電所の事故により避難を余儀なくされている方々には、心よりお悔やみ申し上げます。被災地は、震災から1ヶ月以上経った現在でも被害の全容がつかめないほど広範囲に渡り、深い傷跡を残しています。私たち全国協議会としても、「何か取り組めることはないだろうか」との思いでいます。

平成二十三年度は役員交代の年度ではないため、定時総会は郵送による承認となります。

事務局から送られる総会資料を各グループ内で検討の上、承認していただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

又、年会費は、事務手続き上、振込用紙が届いてから振り込んでいただきますと思います。

*ご報告

昨春秋、慶応大学 中野先生の研究プロジェクトからの依頼で、各グループに特徴のあるサンプルの提供の呼びかけがあり、神奈川県拡大大写真連絡協議会事務局宛に送っていただきました。

それらの資料をまとめて、中野先生にお送りしました。

その後、研究プロジェクトで作業が進められ、ボランティアが作成する「拡大教科書サンプル本」としてまとめられました。

研究結果の詳細については、正式発表をお待ち下さい。

尚、提供いただいた資料は返却出来ませんので、ご了承下さい。ご協力ありがとうございました。ご報告いたします。

現在のグループ数

65グループ

入会 まちだ拡大大写真サークル（東京都）

退会 拡大大写真グループふうせん（東京都）

HPの再開・更新について

22年度中にHPを再開して、会員の皆様や拡大教科書が必要としている方々に、早く情報を提供することが出来るようにと取り組んできました。

しかし、思うように作業が進行せず、年度内の再開に至りませんでした。一日も早く再開し、定期的に情報を発信をしていきたいと思っております。もうしばらくお待ち下さい。

再開し次第、詳しいこととお知らせしたいと思います。

4月27日(水)臨時
5月11日(水)臨時
5月25日(水)
7月27日(水)
9月28日(水)

二十三年度世話人会日程

原則として隔月第4水曜日 午後一時半

(どなたでもお気軽にご参加下さい)

場所 東京都障害者福祉会館

東京都港区芝 5・18・2

交通 JR 田町駅下車 徒歩3分

都営地下鉄三田線・浅草線

三田駅下車すぐ

《編集後記》

桜から若葉の季節になりました。皆様の所はいかがですか。

東日本大震災の影響で3月の世話人会が延期になりましたので、会報の発行が1ヵ月遅れになりました。ご了承下さい。

新年度がスタートしてまもなくひとつき、23年度の教科書製作も一区切りといったところでしょうか。今年度は依頼者が減少したというグループが多いようですが、皆様のグループはいかがでしょうか？拡大教科書が必要とする児童・生徒の方が居る限り、充実した活動を続けていかなくてはならないと思っています。

(I)